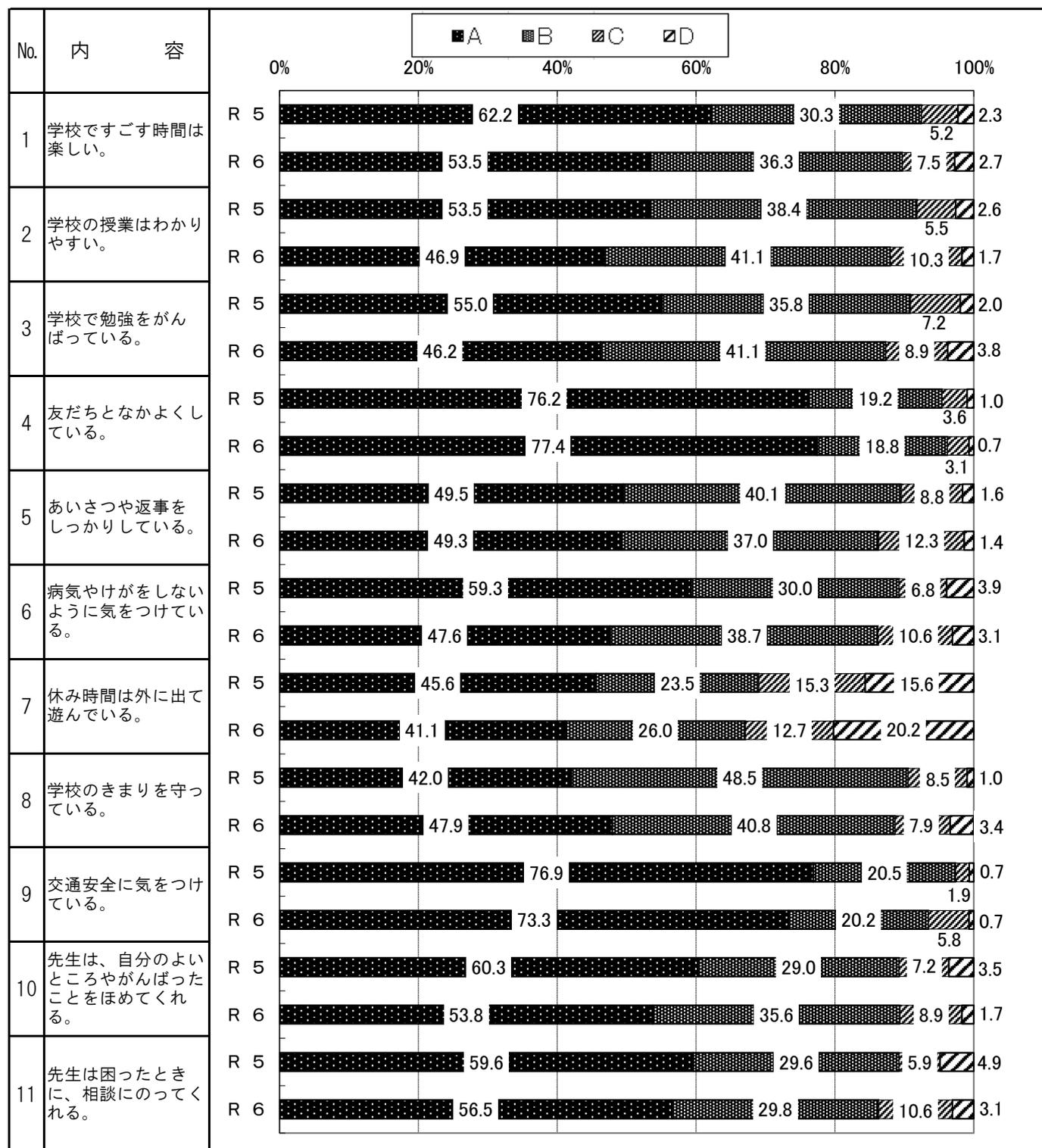


令和6年度 学校評価集計結果（児童）

A…そう思う　B…だいたいそう思う　C…あまりそう思わない　D…そう思わない



昨年度課題となっていた「8学校のきまりを守っている」のA回答は昨年度より高くなった。これは、ノーチャーム週間の設定や生活委員会による廊下・階段の右側歩行に関する啓発活動などを積極的に行い、「星の宮のあたり前」の定着を図ってきた結果であると考えられる。今後も継続し、児童がきまりを守って落ち着いて学校生活を送れるようにしていきたい。また、「2学校の授業は分かりやすい」「3学校で勉強をがんばっている」の結果については、これからも現職教育に力を入れ、児童の知的好奇心を揺さぶり、児童の主體的な学びにつなげられるよう授業研究や研修に励んでいきたい。

一方、昨年度に比べ「6病気やけがをしないように気を付けている」の肯定的な回答が低くなった。これは新型コロナウイルス感染症が5類になってから、常時ではなく感染症の流行時期を中心に感染症対策を行っていること、コロナ禍を経て児童の獲得免疫が弱くなっている傾向にあることから、感染症に罹患する児童が見られたことが要因であると思われる。また、部活動でのけがが増加傾向にあることも要因の一つであると考えられる。今後は、保健委員会による感染症予防パトロールなどの活動を通して感染症予防に関する児童の意識を高めるとともに、けがの予防に関する保健教育を充実させて安全に学校生活を送れるようにしていきたい。